

都道府県番号	2
都道府県名	青森県

【 】

学校名及び規模

学校名	平賀町立平賀西中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数 24
学級数	5	4	4	1	14	
生徒数	138	139	136	3	416	

研究の概要

(1) 研究主題

<p>一人一人が生き生きと学ぶ指導法の研究 確かな学力の向上を目指した指導方法・指導体制の工夫と改善</p>
--

(2) 研究主題設定の趣旨

<p>「一人一人が生き生きと学ぶ」授業（学習指導）とは、授業者が学習者の知りたい欲求を引き出し、価値ある課題として高め、その課題追求の過程において、一人一人に学ぶことの喜びを味わわせる授業（学習指導）である、と定義した。これは、学力を多面的にとらえた新学習指導要領のねらい「確かな学力」に強く結びつくものとする。</p> <p>今年度は、個に応じた指導のための教材開発に努めるとともに、指導方法・体制の工夫・改善にも重点を置き研究を進めることとした。</p>

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

研修推進委員会の特設化

研究の中核となる研修推進委員会を特設委員会として設置している。構成メンバーは、研修主任（1年）、学習指導部長（2年）、副研修主任（3年）、教務主任、教頭の5名である。各学年にメンバーを配置することにより、研究の円滑化を図った。また、学校運営における全体的な視点から研究を進めていけるよう、教頭、教務主任も加わっている。

授業研究会の充実

研修推進委員会によって決められた研究方針が、学習指導部会（教科部会）において具体化され、個人の研究実践に結びついていく。研究の要はやはり授業改善にあると考え、学習指導案に基づき、全員が年1回の研究授業を実施した。教科部会員を中心とした参観者と話し合いをもち、指導力の向上を図った。

町の事業との連携

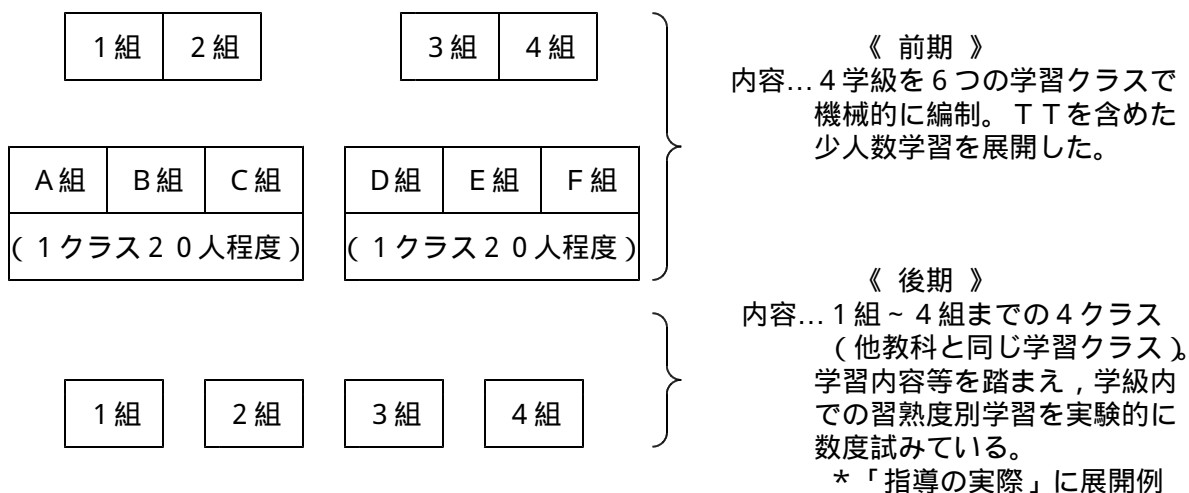
町内小・中学校における児童生徒の基礎学力定着を目指した取り組み、「平賀町学力向上推進事業」とも連携を図り、研修を進めている。この事業は次の三つを中心に展開している。

- ア「基礎学力向上推進事業」…計算力や漢字能力向上のための教材開発とその活用
- イ「学力実態調査研究事業」…標準学力検査（小4～中3）の実施と分析
- ウ「学習支援員派遣事業」…町雇用の学習支援員による学習支援

(2) 研究の実際

個に応じたきめ細かな指導方法・指導体制の充実

前期(4月～10月)と後期(11月～3月)の二期に分けて、次のような指導方法・指導体制を試みた。前・後期とも対象は、2・3年生の数学と英語。指導者は、数学5人(町派遣学習支援員含む)、英語5人(ALTと町派遣学習支援員含む)。



個に応じた指導のための教材開発

町「基礎学力向上推進事業」の一環として、計算力や漢字能力向上のための教材開発に努めた。これは「学習ノート」として町内すべての小中学校に配布される。本校では25分間のドリルタイムを設定し、これを活用する。

また、個に応じたきめ細かな学習指導が展開できるよう、発展的学習や補充的学習に即した教材開発に力を入れて取り組んだ。

指導の実際 - 学級内における習熟度別学習の試み(3年数学) -

ア 指導体制の工夫について

習熟度別学習を試みた3年数学の授業

単元の終了時点で単元テストを行い、それをもとに習熟別(3コース)に分けて発展的・補充的な学習を実施した。

単元テストの問題は、評価規準に即して作成し、コース分けも評価規準をもとに作成した到達度診断票を使った。生徒自身が学習の習熟度をチェックし、基礎コース・標準コース・発展コースを自己選択するのである。

自己診断する際、正誤のみにとらわれず過程を重視するように指導し、コース選択が適切にできるよう配慮した。

授業後半では一斉学習の形態をとり、解説を加え理解の定着に努めた。

教師2名のTTで行い、前半はT₁が基礎コースと標準コース、T₂が発展コースを担当。後半はT₁が基礎コース、T₂が標準と発展コースを担当した。



イ 学習内容について(教材の実際と活用)

ワークシートを用いて、習熟度に合わせ段階的な学習ができるよう工夫した。発展コースは自分の力で「問題作り」に挑戦する。基礎コース・標準コースは同じワークシートを使用。基礎コースはワークシートの前半部分に取り組み、十分な理解が得られた生徒は後半部分にも取り込む。その際、教師は個別指導にあたり、基礎・基本の補充に努めた。標準コースはワークシート全部に取り組み。十分な理解が得られた生徒には「問題作り」にも挑戦させた。

到達度診断票 【図形と相似】

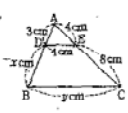
3年 組 番 名前

☆下に示す基準を参考に、□に自己評価を記入してください。
 【数学への関心・意欲・態度】 A:取り組んだ C:わからなかった
 【数学的な見方や考え方】 A:正解 B:計算ミス C:わからなかった
 【数学的な表現・処理】 A:正解 B:計算ミス C:わからなかった
 【数量、図形などについての知識・理解】 A:正解 B:計算ミス C:わからなかった

観点	おおむね満足できる状態	設問	A	B	C
【数量・図形などについての知識・理解】	拡大、縮小、相似の意味がわかる。	3 (1)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	相似な図形の性質を理解する。	3 (2)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	相似比の意味と相似比の求め方がわかる。	3 (3)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	相似な図形の性質と相似比の求め方がわかる。	5 (1)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	三角形の相似条件について理解する。	4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	線分の長さや比を求めるには、三角形の相似条件を根拠として使うことが有効であることを理解する。	13 (1)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		13 (2)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	平行線と線分の比についての性質を理解する。	8	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	三角形と線分の比の性質の逆を理解する。	6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	三角形の中点連結定理を、図形の論証に生かすことができる。	11 (2)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	11 (3)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
補助線の利用の仕方を理解する。	14	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
		合計			

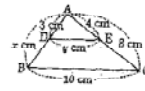
【基礎・標準コース】 これができたら大丈夫

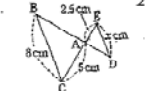
3年 組 番 名前

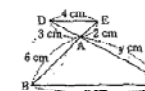
【例題 2】 (三角形と比)
 問 右の図で、 $DE \parallel BC$ である。 x 、 y の値を求めなさい。

 $3:x = 4:8$ $4:12 = 4:y$
 $4x = 24$ $4y = 48$
 $x = 6$ $y = 12$

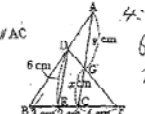
【練習問題 2】

問 次の図で、 $DE \parallel BC$ である。 x 、 y の値を求めなさい。

① 
 $3:x = 4:8$ $4:8 = 8:10$
 $4x = 24$ $8y = 40$
 $x = 6$ $y = 5$
 (Handwritten: $x=6, y=5$)

② 
 $2.5:5 = x:8$
 $5x = 20$
 $x = 4$
 (Handwritten: $x=4$)

③ 
 $3:y = 2:6$ $2:6 = 4:x$
 $2y = 18$ $2x = 24$
 $y = 9$ $x = 12$
 (Handwritten: $x=12, y=9$)

④ 
 $4:6 = x:6$ $5:3 = (4+y):6$
 $6x = 24$ $12+y = 30$
 $x = 4$ $3y = 30$
 $y = 10$
 (Handwritten: $x=4, y=10$)

(3) 研究の成果と課題

《 成果 》

生徒対象の「学習アンケート調査」の結果では、約70%の生徒が「授業内容はよくわかる(わかる)」と回答している。これは、「学習課題の明確化」「教材の工夫」等を意識した授業づくりが行われた成果と考える。

少人数学習や、学級内での習熟度別学習を取り入れた授業を「わかりやすい」「もっとやってみたい」という声が多い。わかる喜びや楽しさが、次の学習へとつながる連続的な流れが出てきた。

教材開発においては、上記のような指導と評価を一体化しようとするワークシート、習熟度に即した複数の教材プリントの作成が積極的に行われるようになった。

《 課題 》

どの単元でどのような学習形態が有効であるのか、またクラス編成はどうあればよいか等、効果的な習熟度別学習のあり方。

「どの力をつけるために必要なのか」を明らかにした教材の開発。

生徒の学習状況や学習スタイル等を適切につかみ、それを指導に生かす評価の研究。

(4) 研究成果の普及の方策

研修会等における説明... 中南事務所管内校長協議会, 中南事務所管内教務主任研修会, 町内学校間連携学習指導研究会等における発表

南地方中学校研究会における実践発表

HP作成 (http://www.town.hiraka.aomori.jp/edu/jrh_nishi/index.html)

実践事例集の発行(中南事務所管内における研究指定校合同事例集)

公開発表... 平成16年10月27日(水)に予定

(5) その他

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】

児童生徒の基礎学力向上を目指した町の「基礎学力向上推進事業」とも連携を図り、町派遣学習支援員をも含めたT・Tや少人数指導を展開。また、発展、標準、基礎の3つのコース別学習を取り入れ、自ら学び自ら考える力をはぐくむ個に応じた指導に関する取組もなされている。個に応じたきめ細かな学習を展開すべく、発展的学習や補充的学習に即した教材開発にも力を入れている。